

令和6年度 第4回大正区区政会議

令和7年2月27日（木）

午後7時00分～午後8時30分

於：株式会社藤井組

大正会館3階ホール

午後7時00分開会

○大津区政企画担当課長

皆さん、こんばんは。

定刻になりましたので、ただ今から令和6年度第4回大正区区政会議を開催させていただきます。本日は、公私何かとご多用の中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

本日の司会を務めます、区政企画担当課長の大津でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、着座にて失礼させていただきます。午後7時現在、区政会議委員定数14名のうち、出席者は13名となっており、委員の2分の1以上の出席がございます。区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第7条第5項に基づきまして、本会議は有効に成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、開会にあたりまして、大正区長の古川よりごあいさつ申し上げます。

○古川区長

皆さん、こんばんは。大正区長の古川でございます。

本日は第4回の、本年度最後の区政会議でございます。今日の資料にありますとおり、本日は、将来ビジョンを改訂しましたというご報告ですとか、大正区の運営方針固まりました、そして、事業・業務計画書という非常に細かい単位、事業単位の計画ができましたと、このようなご報告をさせていただくんですけど、この中で私からは、来年度、令和7年度予算についてあらかじめ申し上げたいと思います。

大阪市では、2月14日に予算案が発表になっておりまして、その予算の中で、大正区の区長自由経費というのがあるんですけど、大正区にお任せする予算という形になりますけど、これがちょうど4億円です。3億9,980万円ということで、4億円付いておるんですが、これ、人口配分で財源枠が決められてしまうので、大正区は24区の中で一番少ない部類に入るわけですけど、この予算の中で何とか頑張ってるということでございます。4億円といいましても、庁舎の修繕費が1億6,700万とか、住民情報の窓口へ委託する人件費が5,100万とか、それから、皆さまの地域に補助金として出す地域活動協議会に対する支援、これが4,100万と、こんな形で大枠はもう決まりきった予算になっています。その中で工夫して、裁量の余地を持たせていくのが区長の腕前なんですけど、なかなかうまくいきま

せんで、非常に小さな枠の中でやりくりしてるということは、これまでの区政会議の中で何度も申し上げてきました。

大正区として割り振られる配分枠、予算枠ではなかなかできない事業を、外枠で、重点事業として国費などを得てやっております。令和 7 年度で一番の大きなものは、窓口サービス課、2 階の住民票や戸籍を受け付けるところでございますが、そのカウンター等の刷新をします。フロアの刷新ということで、これは森林環境税という、皆さまがたぶん年間 1,000 円ずつご負担いただいている特別な税金があるんですけど、この譲与金を使いまして、大正区としてカウンターを木質化、国産木材を使った、木の香りがするかどうかまで分かりませんが、木をふんだんに使ったカウンターにしていくということで、受付台や記載台ですとか、サインなども同時に交換していくということで、3,100 万円ほど付きました。

これは、大正区にとってはとても大きな予算です。これで 7 年度は 2 階フロアをきれいに刷新して、ハードウェアが変わるだけでなく、そこで働く職員が気持ち良いサービスをする、そして、受付に来られたお客さまが居心地のいい空間だなということで、心地よく手続きを終えられると、こういうことをめざして付けた予算でございます。これが私どもの努力できる範囲の中では一番大きな予算。

それから、その次に大きいのが、今日もご説明あると思いますけど、学習・登校サポート事業というのが 1,900 万円ほど付いております。これは、大正区の貧困対策の部分が強いですけれども、いわゆる小学校・中学校で、ネグレクト気味、あるいは、朝どうしてもお母さん、お父さんが起きなくて、学校に不登校気味になるというような子どもがいます。このような子どもたちに対し、支援の手を差し伸べる。特に、朝学校に行けない子に、家まで迎えにいった一緒に登校してくれる。これが登校サポートという事業でございますが、併せて、学習の遅れが見られる子どもについては、学校で勉強を見てもらうこともできますし、お家で勉強を見ていただくこともできます。そのような形でサポートをする事業が 1,900 万円ほど付いておりまして、大正区の学力向上のセーフティーネットとして、最終機能として用意しているものでございます。このようなものも含めまして、区長自由経費、大正区への配分枠の中ではなかなかできないものを重点予算として別枠で取って、苦勞してやっているとというのが大正区の特徴でございます。それをまずご説明しておきたいと思います。

その他、先ほど申し上げたとおり、今日は年間計画の細かい議論になりますので、その細かいところよりも、もう少し大局の、皆さまが普段から思っていることも含めまして、ご意見を頂戴できたら幸いです。

なお、私事ですけれども、前回の区政会議で、区長のこの後の行く末はどうなるんだというご質問を委員から頂いておりますので、本来は最後に申し上げるべきことでございますが、冒頭に申し上げますと、私、3 月 31 日付で大正区長の任期を満了いたしまして、次に淀川区長になることになりました。これは、いわゆる公務員として転勤があったということではなく、4 年でぴったりお仕事は終わり、任期満了とされてしまいますので、もう一回公募区

長を受け直しました。受け直したところ合格しましたので、その配属先が決まったという、そういうご報告でございます。4月から淀川区のほうに参りますが、また引き続き、皆さんと切磋琢磨しながら、大阪市全体をより良いまちにしていきたいと考えておりますので、改めまして、今後の私も併せましてどうぞよろしくお願ひしたいと思います。

本日は第4回の区政会議、よろしくお願ひいたします。

○大津区政企画担当課長

ありがとうございました。

次に、会議の進行につきましては、お手元に配布の資料ならびにあらかじめお送りさせていただきました資料を基に説明させていただきます。議題に入ります前に、その都度資料の確認をさせていただきますが、事前にお送りさせていただいた資料をお忘れの方がいらっしゃいましたら、予備をご用意しておりますのでお申し付けください。資料のほう大丈夫でしょうか。

次に、本日の会議は全て公開とさせていただきます。本日撮影させていただきました動画や写真、会議録等は、後日区のホームページ等で公開させていただきますのでご了承ください。なお、本日はメディアからの取材申し入れもございます。メディアによる録音や撮影がありますので、こちらにつきましてもご了承ください。

それではここで、お忙しい中オブザーバーとしてご参加いただいております方をご紹介します。

出雲市議員です。

○出雲市議員

こんばんは。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○大津区政企画担当課長

なお、小山市議員、金城府議会議員および川岡府議会議員におかれましては、公務によりご欠席と伺っております。

それでは、本日の議事に入らせていただきます。ここからの議事進行につきましては、議長にお願いしたいと存じます。北川議長、よろしくお願ひいたします。

○北川議長

皆さん、こんばんは。令和6年度の第4回区政会議という形で、着座にて進行させていただきます。よろしくお願ひします。

それでは、【議題】1「大正区将来ビジョン2025の改訂について」、区役所からの説明をお願ひいたします。

○大津区政企画担当課長

それでは、議題1についてご説明をいたします。事前に送付しております、書類番号1「大正区将来ビジョン2025（令和7年4月1日改訂案）」および書類番号6、横書きの資料でございます「区政会議委員からの事前質問・意見に対する回答」をお手元にご準備くださ

い。資料のほうよろしいでしょうか。

令和4年度に策定をいたしました、大正区将来ビジョン2025について、将来ビジョンの進捗（しんちやく）状況等の時点更新のため、令和7年4月1日付にて改訂を行う予定です。改定箇所については、資料を事前にご確認いただき、事前質問に対する回答も、書類番号6の1ページから2ページのとおり、書面にて行っていることから、詳細の説明は割愛させていただきます。改定内容や事業の進捗状況について、委員の皆さまからご意見を伺いたいと思います。

○北川議長

はい、ありがとうございます。

ただ今の区役所からの説明がありました、大正区将来ビジョン2025の改訂について、何かご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

まず、事前意見のありました土井委員、よろしく。

○土井副議長

こんばんは。

質問書かせてもらったんですけども、7ページの人口に関するデータで、プラスに転じてるみたいな話があったと思ったんですけども、劇的に増えとったんで、マンションできた恩恵かなみたいなのところに区役所からご回答いただけてまして、ありがとうございます。

でも、堀江さんでしたかね。町会費を払ってくれない単身の人が増えて、必ずしも喜ばしくないみたいな感じの意見もあったり、果たしてどうだろうな。大正区全体にとって喜ばしいって言ったらちょっとおこがましいですけど、若年層というか、子育て世代がどんどん参入してくるために、参入というか、移住してきてくれるために、町の魅力をどんどん高めていってもらえたらなと思います。

質問には書いてないんですけど、全体的にこの将来ビジョンを見て、僕、区政会議にもう丸々2期務めてるんですけども、初めて見た時も同じようにビジョンみたいなのがあって、その時見た印象とさほど変わらないんです、実は。

ってことで、こういう課題を行政が抱えてて、まちが抱えててってのは分かる反面、やっぱり劇的に変化するっていうのがすごく難しい分野なんだなっていうのを思いまして、ほんとに民間でも何か動いていかんとあかんっていう印象を受けました。

以上です。

○北川議長

ありがとうございます。

もうお一方、山崎委員、よろしく。

○山崎委員

お疲れさまです。すいません、失礼します。

そうですね。質問にも書いてるとおりです。下町情緒あふれる人情のまち大正っていうの

もすごいと思うんですけども、交通インフラしっかり整備できてない、バス、市バスのみっていうところで、やっぱり人口減少が見受けられる。特に南のほうは、43号線から南のほうはどこも人口減少につながっているのかなっていう印象にあります。

私も大正区に引っ越してから十何年かな。15年ぐらいになるんですけども、元々西区にいてまして、やっぱり西区はすごい人口が多くて子どもたちも多い。そんな中、若い子育て世代、若い世代っていうのを南のほうについて思ったら、やっぱりちょっと駅がない、最寄り駅が遠いっていうのはすごい大きいのかなっていう印象で書かせていただきました。

それをすることによっていろいろな問題があるのは重々承知しておりますが、どうしようかってとどまったらやっぱりまちも止まってしまうのかなっていう印象がありますので、皆さんで何ができんねやろうっていう知恵を絞っていけたらなと思いますので、よろしくをお願いします。

以上です。

○北川議長

はい、ありがとうございます。

事前に意見のなかった皆さま方から何かございますか。ございませんか、どなたか。

堀江委員。

○堀江委員

先ほど土井委員からありましたが、別に、町会費を払ってないから増えてほしくないって、そういう気は全然思ってもないです。ほんとに10校区ありまして、三軒家東は人口増えてるということで、皆さんからいつもうらやましく思われてるのが現実なんですけど、実際の中ではほんとに、今ありましたように、人口は増えておるんですが、単身赴任の今おっしゃった、町会、そんなことは関係ないよと。例えば、企業さんがマンション借りてるとまでいかないが、ワンフロア借りて社宅代わりにしてるとか、単身赴任の方、単身赴任というよりも、もっと若い人、今おっしゃるように、多分、人口統計いろんな見たら、20代、30代の方が入ってるってこと。会社が地方から大企業入れて、大正区、地下鉄便利ええと、ミナミまで10分で行けるわけですから。ミナミといいますか、本町あたり。そういうのがなってるんで、何かもうちょっとここが違う、ほんとに家族ぐるみ、これはもう欲な話ですが、人情あふれるまち、ここにもちらっと今、山崎さんもおっしゃったように、やっぱり全体がそういうまちに僕はしてほしいな。ですから、ここに千島の大きい公園があるわけですから、これを拠点に、やっぱりもっと他地区からでも集まるような、例えば、33メートルの山の上に常時のカフェでも造るとか、そんな突拍子もないことを考えていかんと絶対人は集まらんと思うんです。インフレが先かどっちが先かという言われますけど、例えば、公共病院でも大きいのが、済生会がだいぶ老朽化してるとかいう話も出てますから、どか一んとほんとに持ってきてもらうような大きいこと考えていかんと、今おっしゃるように、南の鶴町のほうはなかなか大変やと。

私も、三軒家だけがええなんて全然思ってませんが、そういうふうのはいつも思ってますんで、またよろしく。まだまだ先の話とは思いますが、市議員さんも含めてよろしくお願ひしたいと思ってます。

すんません。

○北川議長

はい、ありがとうございます。

ただ今、堀江委員の質問に対して、区役所のほうは何かございますか。

○古川区長

堀江委員、ありがとうございます。

人口の問題は、どこを重点的にやるのかというのが、実は大正区長としてはなかなか施策がしにくくて、どうしても駅の近くから単身者で埋まっていくというような傾向があるので、三軒家東さんが抱えてる単身者、あるいは社宅が多いという問題についてもよく理解してるつもりではあります。

ただ、駅周辺は人口が維持できるだけありがたく、本当に南のほうは、今、各委員からありましたように、どのように活性化していくかというのが引き続き大事な問題だと思っております。

土地の売却を機に活用の起爆剤になるかなとも思いますが、今、大阪港湾局が売却にかけようとしている土地もございますので、その行方も見ながら、しっかりまちづくりをやっていきたいと思っております。

最後に、千島公園を軸に、例えば昭和山の山頂にカフェをと面白い発想でしたが、本当にそれに採算が合うなら、進出する事業者はいると思います。ただ、残念ながら、千島公園そのものが、そういう民間事業者に任せて何かやってみようという対象にまだなっていないんです。例えば、天王寺のてんしぼとか、ああいうところはもう民間ベースでどんどん画期的なことをやっておりますが、まだ中規模の公園の中で千島公園はそういう対象にはなっていないので、これから民間活力を使った公園の活性化なんかも、私どもが建設局のほうに声をかけながらやっていきたいなと思った次第でございます。

ありがとうございます。

○北川議長

はい、ありがとうございました。堀江委員、いいですか。

○堀江委員

はい、ありがとうございます。

○北川議長

はい。ほかにどなたかございませんか。

南委員。

○南委員

お疲れさまです。

すごい根本的な質問なんですけど、将来ビジョン 2025 (案) はいつまで有効なやつですか。今年やのに案って、みたいな。もう始まってますよ、今年。これ、いつまでですか。区長も替わるし。

○大津区政企画担当課長

大正区将来ビジョンは2023年度に今後3年間で大正区をどのようにしていきたいかという考えをまとめたもので、2025年度がその計画内容を達成するための目標年度となっています。そのため「大正区将来ビジョン2025」という名称にしています。2023年に策定してから課題や取り組んできた結果、達成したところや至らないところなどいろいろ出てきますので、1年ごとに改訂をしていっているところでございます。

次は2025年4月1日に改訂をいたしますので、今のところまだ(案) というのが付いており、4月1日に(案) が取れるということです。

○南委員

これ、でも、古川区長体制下での話やないですか。4月から区長替わるいうてんのに、どうするん。次の区長このまま引き継ぐしかないの? という話になりますよね。

○古川区長

おっしゃるとおりなんですけど、大阪市のビジョンのつくり方は、基本的に前の区長のものを一回引き継ぐ時期があります。これまで引き継ぐ時期があまりにも長過ぎて、私が着任してからも2年間、前の区長の施策をやっていたという。それはあまり良くないだろうということで、今回は私の任期に合わせ、2025年でいったん切るという案をつくっています。だから長期ビジョンではなくて中期ビジョンです。3年計画になっております。

つくった時の最終年の呼び名がビジョンの名前になっていますので、2023年につくった2025年までのビジョンということです。新しい区長が着任したら、また1年後までにこの改訂をやっていくという、そういうスケジュールになります。ご理解いただければと思います。

○南委員

ありがとうございます。

なぜそれを聞いたかといいますと、土井さんが質問の4ページのところに、全体像のことばかり書いてて何聞いてええか分からんみたいな話を書いてくれてるんですけど、いうたらもう3年間、改訂を繰り返した資料を全体的に見せられて、何かないかって、ないっちゅうねんみたいな話ですよ。だからもう、僕らも何質問していいか分からんよねみたいな、事前に勉強会みたいなんしたんですけど、今これについて突っ込めと言われても、何も突っ込むことねえよな。っていうかもう、そもそもこの在り方が合ってるのかみたいな話になったので、一方的に資料をもらって読んどけよ、はい、じゃあ当日この莫大な量の資料の中からみんなそれぞれ質問せえよっていう、この質問形式が合ってますかっていうのが、僕

らの事前の勉強会での中心の議論になっていたのも、そこはちょっと問題提起しておこうかなと。

港区さんとか見てたら、部会制で何々部みたいない感じで分けてやってたりとか、各区やり方でいろんなやり方があるっていうの、大正区見るとほかの区のやつ見れない、ネットでは見れるんですかね。そのへん、ちょっと僕ら知識がないので、これが当たり前かなと思ったんですけど、やっぱりみんな思ってること一緒やったので、このやり方が正しいのかどうか、ちょっと分かれへんなっていう話になってたので、今後の在り方として、このやり方、このラリーのやり方を変えていくというのも一つ手なのかなと思っております。

以上です。

○北川議長

はい、ありがとうございます。

どうぞ。

○大津区政企画担当課長

ご意見ありがとうございます。

まずビジョンとか、後ほど出ます運営方針とか予算につきましては、区政会議の委員の皆さまから必ずご意見を頂くことになっている事項になっていますので、議題2にあげさせていただくということをご理解いただければと思います。

○南委員

って、ここに書いてますね。

○大津区政企画担当課長

あと、区政会議の在り方につきまして、おっしゃるようないろいろなやり方があると思いますので、他区の事例も参考にしながら考えていきたいと思っております。

よろしくをお願いします。

○南委員

はい。ありがとうございます。

○北川議長

はい、ありがとうございました。

ほかございませんか。

木幡委員。

○木幡委員

事前の読み合わせをちょっとやった時にも少しあったんですけど、この統計のあれでいくと、大正区が大阪市内で一番犯罪件数は少なく、そういう意味ではすごいいい地域やなというのは読み取れるんですけど、意外と、昔からのイメージからすると、大正区ってちょっとイメージが、ほかの地域の方からすると悪かったりしてたりするのがすごく残念やなと思ったりするところがあったりしております。

私もこの区政委員にならせていただいて、それこそ堀江さんとか北川さんとか中島さんとかといろいろ親しくさせていただく中で、ほんとに地域コミュニティがしっかりあるから、まさにそういう犯罪件数が少ないみたいなのところにも出てきてるのかなというのが何となく感じられるところでありまして、逆にわれわれは工業会のところから参加をさせていただいて、私自身も今、平尾の大正区民になっておるんですけども、われわれでももうちょっと何かできることがさらにあるんじゃないかなということを普段から思っていて、例えば、大正工業会の青年部会、南さんとか土井さんとかともずっと、私ちょっとOBになってしまってますけど、ほんとに前から、町会に企業がもうちょっと参加してもええん違うかとう話とか、われわれ自身も何かいろいろと、もうちょっと地域に対してできることあるん違うかなって常々思ってるんですけども、そこらへんもちょっと、われわれもこれからもっと考えていくべきと違うかなと思いますし、そんなことから、このビジョンの中もいろいろ見ながら感じたりとか。

あと、もう一つ、犯罪件数は少ないのに虐待みたいな感じが多いっていうのが、それが疑問で、先ほど区長からも説明いただいてそうなのかって納得したところもあるんですが、そのへんちょっと、皆さんとしたら疑問に感じておられるん違うかなと思いました。そのへんについても、ご説明いただいたらと思います。

○北川議長

ありがとうございました。

ただ今の木幡委員の質問に対して、区役所のほうございますか。

○古川区長

いろんなお話をいただきました。イメージがちょっと悪いんじゃないかというのは、私もほかのまちで言われたんです。大正区って薬売ってる人がいまだにいるんでしょって。いないですよ。見たことないですよ。そういう柄が悪いみたいに思ってる人がやっぱりいまだにいて、30年ぐらい前の記憶が残っているんじゃないかと思うんですけど。みんな高齢化してますからね。みんな30年前の記憶で生きてるのかもしれないんですけど。やはりイメージがどうこうという部分は、まちの活性化施策の中で払拭してまいりますので、そこはご安心いただきたいんですけど、そういう意味では、百聞は一見に如かずで、大正区を訪れていただくということが一番重要で、本当に温かい、人と人がいい距離感で過ごしてますし、何より優しいですよ。この優しさみたいなものが、ちょっと過ごしていただくことで伝わると思うので。

私が今、一番のお気に入りの行事はヨリドコさんです。泉尾にあるヨリドコさんは非常に大正区の良い部分を生かして活動されてるなと思っていて、私もマルシェにしょっちゅう顔を出してるんですけど、やっぱりそこに集う人たちが、ほんとに人の良さをしっかり出してくださってますし、そこで福祉をやっている人とか、カフェとかお弁当屋さんをやっている人とかが集ってるんです。

福祉の拠点としては「ヨリドコるつぼん」というのも新しく出来上がりましたので、何かやってみたい人と人がうまくつながる場所なんです。そういうつながる場所があるということも含めて、ぜひ一度、大正区に遊びにきてもらって、大正区は事業の場としても、住む場所としても、非常に良いのではないかと選択肢の一つに挙げてもらえるように、今までエリア価値向上事業というのをやってきました。見かけ上はマルシェをやったりまち歩きをやったりしていたんですけど、本当の狙いはそういうところにあります。大正区を見て体験していただければ、きっと気に入ってくれて人口も増えるだろうと、これを確信を持って区長としてやってきました。引き続きそこは、後任の区長もその分野が得意ですので、しっかりやってもらおうと思っております。

あと、企業が町会に入っていくというのは本当にありがたいことだと思うので、工業会、あるいは若葉会からも、ぜひプッシュをお願いできたら、北川会長もとても喜ぶのではないかと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○北川議長

ありがとうございます。

木幡さん、いいですか。

藤田委員。

○藤田委員

先ほどからありましたけれど、今回、2025年のビジョンということなんですが、大正区として、例えば2030年、2040年、どのような状況に持っていきたいかということ、誰がどのように話し合うのかなというのは、ちょっと私自身分かんないんです。といいますのは、区長さんが年々替わるとなったら、先ほどあったように、前の区長さんの方針を、施策は引き継いで、新しい区長さんの色を出していくということが繰り返されていくと、やっぱり4年周期か3年周期かそのあたりになってしまっていて、5年とか10年とか20年とかっていうところがぶらぶらしちゃう可能性があるんで、そのあたり、どっかにぽんと柱があったらいいのかなというふうに思いました。

それからあとは、交通インフラについても、大正駅界限（かいはい）までは電車きてますけれど、そこから南に行くという延伸が、昔は案があったみたいですけど、今はそれも破綻したのかよく分かりませんが、改めて何か、この前テレビ見てたら、モノレールで若い社長さん、28歳ぐらいの日本人の方と、もう一人、外国籍の方が共同で社長さんやってらっしゃって、モノレールである程度簡単なというか、簡易にできるモノレールを造って、それを販売していくというかっていうシステムを作っていこうというようなこともありましたんで、今までにない、何か乗り物、そういったもので設置できたら、また南のほうも活性化するのかなというふうに思いました。

あと、私の施設、10年、11年たつんですが、開設してから。私、その前に北河内のほう

で、四条畷というところで、別の社会福祉法人ですけど、高齢者福祉に携わってきまして、特養、特別養護老人ホームで働いておりましたけど、面会があまり来られなかったんです。

大正区に来て鶴町に施設ができて、面会をと思ったら、81人定員と9人がショートステイで、全部で90名の定員なんですけど、81名の長期入居の方の、大げさに言ったら半数ぐらいの方が、毎日のご家族の方がお越しになってお世話されたりとか、話をしたりとか。コロナになって、いったん面会中止になったりして足が遠のいた方もおられますけれど、その関係性の厚みというののすごく感動しまして、これが大正区なのかなというふうなことを感じております。

やっぱりそういった人間関係の豊かさといいたいでしょうか、そういったものが大正区の宝なのかなというふうに思っておりますので、それをどう引き伸ばしていくかというふうにも考えていきたいと思っております。

勝手なこと言ってしまうせん。

○北川議長

ありがとうございました。

これに関してはないですか。

どうぞ。

○古川区長

すいません。本当に将来を見据えた形で構想のようなものをどうやってつくっていくかという、確かにそういうご疑問あると思っております。それを本来は区政会議、この場でいろいろ聞いていきたいんですけども、皆さまもデータに基づく具体の施策とかということよりも、どうしても個人の思いみたいなものを語る場になってしまいますので、やはりこれは限界がある。きちんとテーマを絞ったような形で、テーマを狭めたような形でご議論いただくとか、あるいは、場合によっては外部のご意見、コンサルティングを受けながらやっていくというようなことも必要なのかなと拝聴した次第でございます。

それから、南のほうの地域で交通の活性化という部分で、今までにない乗り物っておっしゃいましたよね。例えば、新たなモビリティみたいなイメージでしょうかね。もしそういうものが大阪市として導入される機会があれば、大正区は真っ先に手を挙げようと思っております、実は。皆さんご承知のとおり、大正区は本当に平坦で、そして道が広いんです。タクシーの運転手さんに「こんな走りやすいまちないわ」って言われたんですけど、やはり大阪市内の中でもさらに走りやすいです。真ん中に大正通を軸として、きちっと道路が整備されていますので、ほんとに走りやすくて道が広い。

私は、政府の規制緩和が進んだ場合は、ぜひ自動運転特区のような形で、大正区が名乗りを挙げていくべきかなと思っておりますけど、まだ自動運転の車両の機能がそこまで至っていないということで、政府が公募とか、事業自体がそうになっておりませんが、そういう形で先進特区として名乗りを上げるような機会があれば、それを機に開発というか、活性

化を進めていったらいいのではというのを、腹案としては持っております。

そして、入居者さんのご家族の温かさ、大正区の方の人間性の豊かさという部分でお褒めいただいたんですが、私もそのとおり感じておりますので、その良いところをしっかり PR していきたいと思っております。

○北川議長

ありがとうございます。

藤田委員、いいですか。

ほか、ございませんか。

ないようなら、時間の限りもありますので、言い忘れたことがありましたら、またご意見シートにて提出をお願いいたします。

それでは、これにて議題 1 を終了させていただきます。大変貴重なご意見を頂いたと考えております。これらを将来ビジョンの改訂に生かしていただきたいと思います。

それでは、次の議題に移らせていただきます。【議題】2「令和 7 年度大正区運営方針 (案) 及び予算 (案)、事業・業務計画書 (案) について」、区役所からの説明をお願いいたします。

○大津区政企画担当課長

それでは、議題 2 についてご説明をいたします。

資料、ちょっとたくさんあって申し訳ございません。事前に送付しております、まず、書類番号 2「令和 7 年度大正区運営方針 (案)」、縦書きの資料でございます。続きまして、書類番号 4「令和 7 年度事業・業務計画書 (案) 抜粋版」、横書きの、ホチキスでとめた、ちよつとごつめの資料でございます。

続きまして、書類番号 5、縦書きの資料でございます。「令和 7 年度大正区関連予算 (案) 概要」。最後に、先ほど議題 1 の時にも見ていただいております、書類番号 6「区政会議委員からの事前質問・意見に対する回答」をご準備ください。よろしいでしょうか。

大正区の運営方針および事業・業務計画書につきましては、資料を事前にご確認いただき、事前質問に対する回答につきまして、書類番号 6 の 3 ページのとおり、書面にて行っていることから、詳細の説明は割愛をさせていただきます。

それでは、書類番号 5 の、令和 7 年度の予算 (案) につきまして、総務課長の嶋原よりご説明を申し上げます。

○嶋原総務課長

総務課長の嶋原です。私のほうから説明させていただきます。座ってさせていただきます。

資料番号 5 に基づきまして、令和 7 年度大正区関連予算 (案) について説明をさせていただきます。

まずは、この上段のところです。1 のところに書かせてもらってますように、予算編成に係る考え方につきましては、記載しておりますとおり、大正区では、大正区将来ビジョン 2025 の 4 つの柱に基づいて施策を展開してるところでございます。

その中で、大正区の関連予算につきましては、最初に、区長のほうからもありましたように、下段にお示しさせてもらってますように、トータルで8億7,584万円となっています。内訳につきましては、区長自由経費、これは区長の権限によりまして、区役所が実際に実施する事業でございますが、これが3億9,986万でございます。この区長自由経費は、昨年度、3億7,169万円に比べまして、約2,800万円増額となっております。

その下のところに、区CM自由経費、こちらのほうは4億7,597万円となっております。これは、区シティーマネージャー経費として、区長の権限によりまして、建設局や環境局など、いろいろな部局が実施する予算でございます。この分野では、局職員が区長の部下になって、区長が部下である局職員に対して指示をして実施する事業という立て付けになっているものでございます。こちらは、昨年4億4,623万円ございましたので、昨年に比べて約3,000万円増額となっております。

続きまして、1枚めくっていただきまして、裏面のほうになるんですけども、特に7年度、重点的に取り組む5つの事業を取り上げてございます。順に説明をさせていただきたいと思っております。

1点目、区長も説明いただきましたので、重複する部分もあるかと思うんですけども、国産木材を活用した窓口サービス課フロア整備事業でございます。こちらのほうは、来庁者が最も多い2階のフロアにおいて、国産木材を活用した窓口カウンターや什器類を整備し、美観を高め、来庁者が快適に利用しやすい窓口とすることで、区民サービスの向上を図ってまいりたいと思っております。3,135万2千円を計上している、単年度の新規事業になります。

2点目です。こちらのほうは、万博の来場促進等の取組で、818万9千円を計上してございます。万博会場内の大阪ヘルスケアパビリオンのステージを貸し切って、大正区のイベントデーとして、区内で活動されるさまざまなパフォーマンス団体による、音楽、ダンスなどの公演を実施し、仮称ですけども「大正音楽祭」を開催し、区民の来場意欲の促進を図りたいと考えております。当区の多様で魅力的な文化を広く発信してまいりますので、よろしくをお願いします。また、ドイツとの交流事業も、この中で引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

3点目です。学習・登校サポート事業で、こちらは生活困窮やネグレクト、不登校などにより、学習機会を逃した児童・生徒を対象に、学習支援や登校支援を実施してまいるのでございます。こちらは、昨年に引き続きまして、区役所内に、中学生を対象に、学校、家庭以外の第三の居場所を設置し、専門のスタッフが一人一人に寄り添った支援を行い、不登校対策に重点的に取り組んでまいりたいと考えております。1,928万9千円を計上してございます。

4点目、就学前子どもサポートネット事業でございます。これは、大正区版ネウボラとも呼んでおりますが、このネウボラという言葉は、フィンランド語で「アドバイスの場」を意

味するもので、子育て支援制度という意味で使用しているところがございます。妊娠期から中学生までの切れ目ない支援を進めるため、4・5歳児に専門の推進員を配置し、発達や家庭の課題、変化を早期に発見し、必要な支援につなげる仕組みとしておりまして、重大な児童虐待ゼロをめざすものがございます。この事業につきましては994万8千円を計上しております。

5点目、地域防災対策事業としまして、539万7千円を計上してございます。これは、区独自の津波避難マップを更新し、全戸配布をすることや、地域の自主防災組織の個別避難計画作成、それから防災訓練等の支援など、自助・共助の意識を高めることを推進してまいりたいと思っております。また、医療機関と連携し、医薬品等のローリングストックの拡充や、事業者との災害協力協定の締結など、公助の整備についても取り組んでまいりたいと思っております。

以上の5事業、特に重点的に取り組んでまいりたい事業として挙げさせていただいてるところでございます。

続きまして、3ページ、4ページになるんですけども、こちらは区長自由経費の予算(案)、及び区CM予算(案)の、6年度と7年度の対比を棒グラフで示してございます。先ほど申し上げましたとおり、区長自由経費の令和6年度は、棒グラフの下に記載しておりますように、3億7,200万、7年度が約4億ということで、約2,800万円の増加となっております。これは先ほど説明させていただきました、国産木材を活用した窓口サービス課のフロア整備事業が一番大きな要因と考えております。

1枚おめくりいただきまして、大正区のCM予算(案)でございます。これも先ほど申し上げましたように、区長の権限により、区長の部下職員としても、局職員が実施する事業でございます。左側の棒グラフ、令和6年度が4億4,600万。右側の7年度、4億7,600万。約3,000万、こちらのほうも増加となっております。この要因としましては、右側の吹き出しのところに増減等を記載させていただいてるんですけども、上から2点目、公園施設整備事業、安全安心・リフレッシュ事業になるんですけども、約2,188万の増となっているところがございます。この公園整備事業につきましては、24区を3つのグループに分割して、年度ごとに公園整備と公園設計を順繰りに整備しているところで、7年度につきましては、公園の整備が大正区に当たっておりますので、その分増えているところがございます。

そのほかにも、1点目のところの公園管理作業のところ約130万円増えておりますが、こちらは、公園環境の維持管理や啓発、注意看板の作成等を行う事業でございますが、増えた要因としましては、人件費が上がっている部分での増というふうに聞いております。

それから、4点目の、母子父子寡婦福祉資金貸付金およびその事務費というところなんですけども、こちらは、母子および父子ならびに寡婦福祉法に基づいて、経済的自立と児童の福祉を増進するための貸付金制度になっております。こちらは、242万増えてるところではございますが、これは7年度、国への償還額が増加するというところで、大正区だけでなく、全区

が増えてるといふふうに聞いてございます。

ほかの項目につきましては、また改めてご覧いただければと思います。よろしくお願いいたします。

雑ぱくではありますが、説明は以上とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○北川議長

はい、ありがとうございました。

ただ今の区役所からの説明がありました、令和7年度予算（案）や、大正区運営方針、事業・業務計画書について、ご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

まず最初に質問がありました、土井委員。

○土井副議長

質問に関しては、事業・業務計画書（案）の中にもものづくりの文言が一回も出てこなかったのが悲しかったということに対して、重点的に、内容に大きな変化があった事業中心にまとめてますという回答を頂いてるので、「へー」と思ってます。

今、説明の中で、また同じ質問を過去にもしてたら申し訳ないんですけども、公園施設整備、24区を3つのグループに分けて、大正区が今回その担当に当たってるってことやったんですけど、具体的にどんなこと、多分、建設局を部下として動かすみたいな立て付けやと思うんですけど、樹木の剪定（せんてい）とか、例えば、遊具の改善とかあると思うんですけど、具体的にどんなことに使われんのかなと思ったのと、あと、事業実施選択余地のある予算ということで、シティーマネージャー自由経費の中で、ここの使いどころは区長の腕の見せどころと言うてましたけども、これってやっぱり、住民が増えて、増えれば増えるほど、この与えられる経費というのも増えていって、自由に使える余地のある予算も増えていくような、そんな立て付けなんではなかね。

2点お願いします。

○嶋原総務課長

総務課長のほうからお答えさせていただきます。

まず、1点目の公園部分につきましては、公園内の整備というところで、いわゆる公園内の道路といいますか、道であったりとか、そういう設備面の整備が予定されてるところですので、木の剪定は定例のところ、何かあればもちろん対応していただいているとは思いますが、そういう全体の整備というのが今回、当たる年になってるところです。

CM 予算のところの話が今あったんですけども、確かに人口割のところというのはもちろんありますので、そのところは、言われてる部分では少し出てくると思いますし、その部分で大正区は少し、予算のところは厳しい状況もちろんあるかと考えております。

○土井副議長

整備の中でも、ごめんなさい、もうこのまいますけど、公園何個あるか分からないですけど、幾つかある中で、その中で重点的にどこみたいなんも決まっていたりするんですか。

行政の中で。

○嶋原総務課長

ちょっとお待ちください。

○大津区政企画担当課長

公園リフレッシュにつきましては、具体的に申しますと、小林公園の園路を今、土舗装になってるところを、アルファルト舗装にすると聞いておりまして、ここが金額が大きく増える要素になってるということでございます。どこを整備するのかというのは、局のほうから毎年区長に説明があつて、承諾を得たところからやっていくというような形になっております。

○堀江委員

あんまり自由裁量やあれへんな。

○南委員

ほんまや。

管理費はここに入ってないんですか。

○古川区長

入ってます。

○南委員

入ってるんすか。

○古川区長

伐採とか剪定とかも入ってます。

○南委員

コミ協さんとかにお願いしてる管理費。

○古川区長

管理というか、事務費ってことですか。

○南委員

ですかね。運営の。

○古川区長

コミュニティ育成事業という形で、いろいろな団体をつなぐ事業とかはやってもらっています。それも入ってます。全部入ってます。

○北川議長

ほかは。ほかはございませんか。

山崎さん。

○山崎委員

すいません、先ほど土井委員の言ってた公園施設なんですけども、大正区 PTA 協議会で毎月、大きな公園を、大正区中の公園を回って、プロギングという事業をしております。プ

ロギングというのは、ジョギングとかランニング、ウォーキングをしながらごみ拾いという活動をしてるんですけども、その活動で、今、いろんな公園回ってまして、各地域の団体さん、まちづくりとか公園愛護団体の方と一緒にやってるんですけども、ただ、今建設局のほうからごみ袋の支援っていうのをさせていただいてまして、そちらのほう、建設局さまのほうも、大阪市中をしていきたいのでっていうので、ちょっとモデルになってという話も頂いてます。

その中でやっぱり、ごみ袋の支援はすごいありがたいと頂戴しております。ただやっぱり、いろいろな物資が足りない状況でして、軍手やトング、トングとかはその地域、その公園の地域のところからお借りしてる状況で、軍手は大正区 PTA 協議会から来られた方に全部出してるっていう形をさせてもうてるんですけども、できれば助成していただきたいというところがあります。もっともっと人を集めてやりたいし、そういう、ごみ拾っても、翌日見にいったら家庭ごみが落ちてたりっていうので、参加してくれた方も、家庭ごみがやっぱり一番腹立つし、どうなってんねやろっていうところ、抱えておられます。

防犯カメラとかそういうのって、防犯カメラで監視してますよっていう看板一つあれば違うのっていう意見もありますし、公園のごみ箱があればみんなそこに捨てるのっていう意見、もちろん、ごみ箱置いたら置いたで、やっぱりごみがあふれるっていう問題もあるかと思うんですけども、でも、ごみ箱あるからそこに捨てるっていう意識も芽生えてくると思うんです。そのへんもちょっと考慮していただきたいなと思います。

以上です。

○北川議長

ありがとうございます。

ただ今の質問に対して、区役所のほう。

○大津区政企画担当課長

モデル事業、受け入れていただいてありがとうございます。

公園のにぎわいづくりとともに維持管理の担い手を増やしたいということから令和 7 年度からは PTA 協議会さんがやっていただいているプロギングをモデル事業、24 区の代表事例のひとつとして始めることになりました。今後は全区展開も考えておりまして、今おっしゃられていたごみ袋のほうは、建設局から頂いているのですが、軍手、トングにつきましては、即答はできませんが、防犯カメラの表示でありますとか、ごみ箱の設置とあわせまして建設局とお話はさせてもらいたいと思います。

○山崎委員

はい。よろしくをお願いします。

○北川議長

はい、松村委員。

○松村委員

松村です。よろしくお願いします。

私、鶴町地域なんですけれども、今、山崎委員が言ったみたいに、12月だったかな。鶴町が当番ということで、一緒に小学校のPTAの方と、自分たちも、社協のほうも声かけたり、女性会も一応声かけて出ていただいたんです。ほんとにもう、みんなの声は、鶴町公園があるのに、もう草がぼうぼうになっていて、みんなが、それは何とかしてほしいって言うんですけど、なかなか八幡屋公園事務所と、そういういろいろな組織がありまして、なかなか難しいってことで、もうほんとに言ってください、言ってくださいってことで、でも、今回はほんとに、今、きれいになってますので、それを持続したいので、今、山崎委員がおっしゃったみたいに、持続してほしいってことは、今、区役所でも考えていただいているようですので、なお一層よろしくお願いします。

○北川議長

ありがとうございます。

ほか、どなたかございますか。

姉川さん。

○姉川委員

姉川です。よろしくお願いします。

予算のところなんですけれども、去年から大正白稜高校のところで、それこそ、ヨリドコのまにまにさんと一緒に、高校生の貧困の子たちのおにぎりプロジェクトっていうのを、まにまにさんがおにぎり作って、僕らのほうでプラス食材を配布するっていう活動を、今、一緒に3回か4回やらせてもらってるんですけども、要は、高校の子らも、ご飯をきっちり家で食べれてないという実情があって、教頭先生が相談に来られてそういう活動をさせてもらってるんですけども、結構やっぱり、食材配布するのにもお金がかかって、僕らのお金ではないんですけども、僕らのお金じゃないって言うたらおかしいですけども、一応、国からの助成金を頂いて、それを活用して食材を配布させてもらってるんですけども、なかなかそういう実情があるのは心苦しいな。で、お金がないとやっぱり、そういうのの持続も難しいなど。もう今、すごく、毎年毎年ですけども、こどもの居場所づくりとかやってたらすごく感じる場所です。

そんな中で、大正区の小学校のスクールソーシャルワーカーさんから、僕自身が直接聞いたわけじゃないんですけども、ほかの職員が懇談する機会があって、やっぱり小学校の児童たちの欠食問題も、今すごい問題になってるっていうので、どうにかならんかなっていう、相談ではないですけども、そういう話が会議の中で挙がったという話を聞いてます。

そんな中で、朝ご飯の提供をされてるところが、大正区は小林小学校されてるんですかね。あれ、週1回でしたっけ。

○山崎委員

月ですよ。

○姉川委員

月1か。月1されてて、あんなんしたいなってずっと僕、大正区に異動してから思ってるんですけども。東淀川区の西淡路小学校というところが「朝ごはんやさん」っていうのを、もうほんとにまちづくり実行委員会中心になって、毎週月・水・金、朝ご飯を家庭科室、調理室を使ってされてるっていうのを聞いてまして、僕もそれを前に知ってたんで、月1回なんですけども、西区でずっと朝ご飯を、登校するこどもたちに提供してた時期があったんです。

それはちょっとコロナで中止になったんですけども、朝ご飯を学校で提供することで、こどもたちは遅刻が減ったとか、勉強の集中力が上がったっていう話を聞いて、やっぱり食の問題はすごく大きいなと感じてるところで、ただ、そのお金が、まちづくり実行委員会さん、地域活動協議会さんのお金から出してるっていうこと聞いて、それが地域活動協議会のお金でいいのか、それとも、ここに書いてるほかの、こどもたちの、こどもサポートネットとか、学習・登校サポート事業、こういうところから出されへんのかなっていうのをちょっと思っ

ここに学習支援は書いてるんですけども、例えば、登校支援等のところにそれがはまらんのかなとか、どこまで予算の範囲が限られてんのかなと。町会のお金を使うことが果たしていいことなのか、実行委員会さんがそれを良しとするなら僕はいいと思うんですけども、このサポート事業っていうのが、もちろん枠組みづくりの、仕組みづくりの予算っていうのは分かるんですけども、もうちょっと柔軟にできるとかそういうのはあるのか、ないのかっていうのは少し聞きたくて。

よろしくをお願いします。

○北川議長

はい、ありがとうございます。

じゃあ、区役所のほう、お願いします。

○前田こども・教育担当課長

姉川委員、ご質問ありがとうございます。

まず最初にお金のお話が出たところなんですけども、こども食堂とか、こどもの居場所づくりに関しましては、予算面で言うと補助制度がございます。紹介しますと、こどもの居場所づくりの活動をされる場合については、大阪市では、本市が必要とする地域にこども食堂などを開設する場合については、現在、こどもの居場所開設支援事業補助金がございます。補助金の対象につきましては、例えば、現在、小学校区の中で居場所が開設されていない校区が対象となっております。

大阪市社会福祉協議会の制度では、こども支援ネットワークがございます。こども食堂を開設する場合に、このネットワークに参加することによって、例えば、万一の事故に対応した保険料や物資等の提供があり、こういったこども支援ネットワークがございます。

あと、大阪市社会福祉協議会の制度ですが、大阪市ボランティア活動振興基金助成がございます。こども食堂などを開設する際の補助制度がございます。

委員のご質問の中で大正区の予算の中で、こういったこども食堂に柔軟にお金を使うことができないのかというところがございますが、学習・登校サポート事業では貧困対策ならびに不登校対策事業として実施しており、予算額は約1,900万円です。この内訳としましては、大阪市のこどもサポートネット事業で課題のある児童生徒を対象に学習や登校支援、居場所支援を実施しています。これらの事業にかかる人件費でございますので、自由に使える予算ではありません。

大正区の中では、こども食堂をされてる校区がございます。例えば、朝食の欠食という対策として、小林小学校のほうで今、月1回、「つつじ食堂」においてパンとジュースを提供しています。

この財源については団体から提供していただいておりますが、他の校区では、宿題カフェというようなこども食堂をされてる場合もございます。その財源については、地域まちづくり実行委員会が主体になって地域活動協議会補助金を活用しているところもございます。このように各地域の中で判断していただく部分もございますので、そこは柔軟に対応できるのではないかと思います。

○北川議長

ありがとうございました。いいですか。姉川さん、いいんですね。

○姉川委員

はい。

○北川議長

はい。ほか、ございませんか。

○南委員

ちょっとだけいいですか。

○北川議長

はい、どうぞ。

○南委員

すみません。

僕、区政委員になって、いろんところで何すんのみみたいな話をしたり、説明する時に、大正区、人口一番少なく、予算も少ないから大変やねんっていう話をよくするんですけど、今日この資料、2枚でぺろっと3,000万、3,000万、6,000万と言うてるじゃないですか。これ、この予算はどう決まるんですか。これは大正区の人口がそれだけ増えたっていう意味なのか、大阪市の税収がそれだけ増えたっていうことなのか、そのへんの割り振りがどうやって決まってるのかなっていうのがちょっと知りたいなど。

あと、寡婦っていう言葉知らなかったんで勉強になりました。今調べました。難しいです

ね、寡婦っていう言葉ね。定義がね。

○北吉副区長

区長自由経費でしたら、大きく増えてるところで、庁舎管理事務費が約 1 億 6,700 万円から約 1 億 9,200 万円に増えてるんですけども、その中に、先ほど申し上げた国の森林環境譲与税を活用した予算で確保した国産木材を活用したフロア整備事業が含まれていまずので、大きく増えてるのはそういったものになります。

○南委員

そうか。使い道が増えてるってだけなんですね。予算こっだけ増えるということが、もらえてる総額が増えてるっていう意味かなと思って、なんで増えたのっていう質問です。

○北吉副区長

国の森林環境譲与税を活用した予算を確保しにいった結果でもございます。

○南委員

そんだけ使うよっていう話を計上したっていうだけの話ですね。

○古川区長

そういうことです。腕の見せどころで成果が出たっていう。そのぶん何もないところから、ゼロから引っ張ってきたという意味で 3,000 万増えてると。

区 CM 経費については、公園整備などで維持管理よりも整備のほうがお金かかりますから、整備の順番に当たった年はぐんと増えるということで、たまたまの要素があります。なので、腕を見せたところとたまたまの合わせ技でございます。

○南委員

お金あげるっていつてもらったもんじゃないですね。こっだけかかるからくれって言うて引っ張ってきたというような感じですね。ありがとうございます。

○北川議長

ありがとうございました。

次に、姥さん、どうぞ。

○姥委員

姉川委員のこども食堂について、ちょっと小林のほう、お話させてもらいます。

小林のつつじ食堂は、コロナ禍で、児童たちにパンとジュースを月 1 回お配りしています。下校時に、1 年から 6 年生の教室に女性会、民生委員、PTA の方が持って行って、皆さんの前で、これは明日の朝召し上がってねって言って、1 人ずつに渡して行っています。その援助は、大正区ライオンズクラブの方がご協力いただいていますので、とても助かっています。

コロナがなければ、手作りの食事を出そうと思ってたんです。だから、冷蔵庫も一応買ってありますし、トレーですとか食器も一応買ってあるんで。でも、なかなかちょっと難しいなっていう部分があるんで。また、小林小学校も、言っているか悪いですか、令和 10 年に統合されるので、できたらこのままライオンズクラブさんがご協力いただいて、パンとジ

ューズの朝食サービスさせていただいたらありがたいなと思ってます。

以上です。

○北川議長

はい、ありがとうございます。

○堀江委員

委員長、よろしい？

○北川議長

はい、どうぞ。

○堀江委員

素晴らしい話と思います。僕、根本的に、今まで見てると、こどもに費用を、中学校の子が、高校とか、それほどこどもに金かけないご時世なつとんのは根本的にいかんことやとは思いますが、そこらをもっと何かせないかんなど、反対に思いますけどね。どない思いますか。月1回でええんやったら、どこでもほんとに。1回でええんか、そら週1回、2回、3回できてあれやと思います。月1回やったらお土産持って帰ってる。極端、これは失礼な言い方ですよ。ですから、それをやっぱり、もっと根本的に、ここの小学校できて、うちできてない。反対にそれじゃいかんねん。するんやったらやっぱりもう大正区全部で、月1回はその日作るとか、何かせんと。それやったからいうて小林小学校行くわけやなし、月1回ね。だから、そこらもちよっと、根本的なとこ。根本的に言うともう大きい話になって大変やと思いますけど、三軒家東もそれを聞いて、そんな話もしたんですが、月1回でそんな喜んでもらえるんか、反対に、うち、400人ほどおりますから、費用的にはとても難しい話があるんですが、1回でいいんやったらどないしてでも僕、やろうとは思いますが。ちょっと、僕の表現がきついとは思いますが、何か。宿題カフェ、僕、毎週毎週やっていたらあれやけど、月2回したって、広報載って、三軒家東、どっかの地域ようやってるなど、そういう満足感だけでいったら、僕は反対に行かん。ここにぎょうさんいろんな、中学生の子がここへ来ないかんとか、それにこれ、何百万、何千万の金使っている。ほな、高齢者の方、反対にそれ聞いたら、わしらもちよっと何とかということも出てけえへんのかなと。大正区の人はおとなしいから何も言わんと思いますけど。何かそんなんが、ふと、ふと、いつも予算見ながら思うんですけど。すみません、要らん全然違う話。

それともう一つ、例えば、その、これは全然今の話、千島の公園にトイレがありまして、1つの便器壊れたまま、もう半年ぐらいです。この間の区民まつりから壊れたまま、この間のマラソンの時も壊れたまま。なんぼ予算がどうかって、便器壊れて、3つのうちの1つ壊れておしっこできひんて、そんなんほってるような、その行政のほうは、僕は根本的にも間違っていると。そんなもん、皆さん行ってはって、区役所の人が行ってはれへんかどうか知りませんが、そんな根本的なとこを、やっぱりもっと早うに、美しい町つくりかんのが現実。ごみ拾ってどうのこうのよりも、そんなん整理するほうが先やと僕はいつも思います。

すんません、要らん話。委員長、違う話やってすんません。

○北川議長

はい、どうぞ。

○古川区長

こども食堂の話が続いたんで、総合的にちょっと回答したいと思います。

こども食堂は、大阪市全体として各地域に1カ所ぐらいあってよいのではということ、地域ごとに1カ所開設しましょうと、こども青少年局という局が構想しております。そういうふうには私たち区のほうに、ぜひ1カ所ずつつくってみたいにお尻をたたくんですけど、一番肝心なのは担い手がいないんですよ、やはり。姥さんのところみたいに女性会、あるいは地域の方が総がかりで、月1回、あるいは月2回ぐらいで、覚悟を決めて取り組んでるところは、それが習慣化してるから何とかできているということです。担い手さえいれば、例えば、フードドライブといって、どこかで不要になった余った食材が届くサービスなんかを、社会福祉協議会も実施していますけど、コンビニさんとかでもフードドライブを受け付けていますというふうにやっています。食材だけをかき集めてくることはできるし、それに対して場所を提供する、例えば、地域の会館などを提供する、ここまではできるんです。だけど、担い手がなかなかいない。担い手さえいれば、週1回ぐらいどこかでできるのではという、潜在能力としては多分、わが国はあるんだと思います。あるんですが、やはり人件費が一番高いですから、その部分を委託というか、プロに任せるっていうことは多分、実現不可能なんだろうなと思ってます。

だから結局、その活発な地域活動と、食材・資材が相まって、たまたまできているところが今、うまくいってるというのが現状でございまして、それを全ての地域で、担い手の発掘から全部やるよというのがなかなか厳しいのかなというふうには思っております。

あと、先ほど課長からご紹介があった、こども食堂を開設するにあたっての大阪市の補助金みたいのも実際にはあるんですけども、それはイニシャルコストなんです。開設するにあたって、厨房機器を買いますとか、カウンターを改修しますとか、こういうものに対してはお金が出るんですけども、維持運営していくお金というものは、やはり役所が投入しないですよ。きりがないので。なのでやはり、維持運営のための肝は人件費です。担い手をどうするかになると思います。

それから、堀江委員の最後のお話、トイレの便器が壊れたままでけしからんということですけど、これも予算が全然ないわけじゃないんです。トイレ改修をするための設計をするとか、そういう人手が足りないわけです。だから、常に順番待ちの状態になってるということです。誰かがさぼってるとかいうことではない、あるいは、予算が1円もないってことではないんですけど、まず、どの公園のどの部分から着手するかという順番待ち状態であるために時間がかかるというのが現状です。そこは公園の運用の仕方として、できることは工夫していきたいと思っております。

ありがとうございます。

○北川議長

山崎委員。

○山崎委員

何度もすいません。小林の話が出てましたので、ちょっとお聞きしたいことがありまして、令和10年度に小学校統合ということで、防災の、切っても切れない防災の拠点って、各小学校にあると思うんです。もちろん、備蓄品とかもあると思うんですけれども、もし統合が決まった場合、小林小学校の防災の拠点と備蓄というのはどうなるのか。統合が決まって誰もいなくなった場合、建物の風化って多分、だいぶ早くなっていくと思うんです。そのへんの設備とか建物の強度的なものっていうのもちょっと気になるんで、お答えいただければと思います。

○北吉副区長

学校の統合が教育委員会で議決されて、跡地になる学校をどうしていくのかということについては、これから市の計画調整局や契約管財局などと調整をしていくこととなります。12月に地域で説明会をさせていただいた時の資料には、防災の拠点として必要であれば、跡地活用検討会議を立ち上げて議論を行い、防災の拠点としての必要がないとなれば売却というフロー図を付けてたんですけれども、区としては防災の拠点としての活用が必要という考え方で、これから局と協議をしていくという段階になります。

防災の拠点として必要となった時に、どういった土地の活用をしていくのかということについては、また検討会議の中でご意見などもお聞きしながら議論していくことになる予定です。

○山崎委員

まだ何も決まってないっていう状態ですね。分かりました。

○北川議長

はい、ありがとうございます。まだまだご意見があるとは思いますが、時間に限りがありますので、発言できなかった意見はご意見シートで提出をよろしくお願いいたします。

それでは、これにて議題2を終了させていただきます。大変貴重なご意見を頂いたと思っております。これらの意見を運営方針等の策定に生かしていただきたいと思っております。

本日本日予定されている議題は、以上で終了とさせていただきます。委員さま方には、議事進行にご協力をいただきましてありがとうございました。

○大津区政企画担当課長

北川議長、いただきありがとうございます。

それでは、本日の配布資料の中にご意見シートがございますので、本日の会議でご発言できなかったことや、本日の議論を踏まえて、改めてご意見、ご質問がございましたら、ご記

入の上、3月5日の水曜日までに提出のほうをよろしくお願いいたします。

最後になりますが、来年度の区政会議の日程についてお知らせをさせていただきます。お手元、書類番号8、縦書き1枚ものの資料なんですけども、来年度の区政会議の日程について書いた資料がございます。

令和7年度の大正区区政会議の日程の予定なんですけれども、まず、1回目なんですけど、1回目は令和7年6月20日の金曜日、時間は19時から20時半ということで、場所は、今度は区民ホールのほうに戻りますので、そちらのほうでよろしくお願いいたします。

来年度は、委員の改選がございまして、現在の委員の皆さまの任期が2回目までということになります。ですので、2回目までの予定ということで、2回目は9月19日の金曜日ということで書かせてもらっておりますが、3回目以降の日程につきましては、委員の改選後に改めてお知らせをさせていただきますのでよろしくをお願いいたします。

それでは、本会議の結びにあたりまして、区長の古川より総括を申し上げます。

○古川区長

長時間にわたるご議論をありがとうございました。今日はその場で全部、私も含めて即答させていただいたんで、一つ一つの取り上げは割愛いたしますが、今日いただいた議論、大きく2つあるなと思いました。

まず、役所も含めて、あるいは地域も含めてなのかな。もうちょっとできるんじゃないか？という議論ですよ。例えば公園整備、プロギングしていただいた。ほんとにありがたいし、これ、24区の代表事例として、モデル事業のような形で区長会議でも発表させていただいたんです。そういうことで、我々がやっているあともう一押しのところ、何かできないのか？というご意見も多かったと感じました。プロギングといえばごみ袋だけなのかということですよ。もう少し実態的に一番助かるところに手が届くように、工夫できるように考えたいと思います。それから公園も、皆さん一生懸命使っていただく、あるいはお掃除していただく中で、草ぼうぼうだとか、掃除しても結局草が生えてるとなると、きれいになった感がないですよ。その辺も含めて、予算が優先的に回ってくる順番というものは、前倒ししようとか、こっちを先にやれとは、なかなか通用しないんですけど、少しずつ工夫の声が届くように、住民の皆さんもやってくれるんだから役所ももうちょっと頑張ろうよ、という論点を提示していきたいなというふうに、感想としては思いました。

これ、こども食堂も同じですよ。ここまで担い手を出すから、あとは食材とか集めてきてよとか、こういう役割分担のような形で、もうひと伸びを、もうひとサービスできるのではないかなというのを感じた次第です。

もう1つは、大正区の人良さ、人の豊かさというところ。木幡委員、そして藤田委員からもご提示がありました。私も4年間住んでみて、本当にそのとおりでと思いますし、このまち離れたくないなと思います、やはり。人の豊かさっていうのは、貧困とかお金持ちとかそういうレベルじゃないんですよ。多分、風土としてこのまちに培われてきた優しさみた

いなものなので、一朝一夕には変えられないと思います。このまちがこれだけ優しいまちになったことは、住民の皆さまは誇るべきだと思ひ、私たち役所は、それを外に向かってアピールして、大正区の一員になってみませんか、仲間として、人口を増やすという観点からも、ぜひ一緒に住んでこのまちを創っていきませんかという観点からも、PRに努めなきゃいけないというふうに実感した次第でございます。

本当にたくさんのご意見ありがとうございました。

そして、最後になりますが、4年間、私とともにこの区政会議の運営に当たっていただきまして、誠にありがとうございました。私のほうが勉強になることが多かったんですけど、足りないこと、いっぱいあると思います。役所としては、いっぱい、限界があるんですけども、まずは声を届けていただいて、できることから一つ一つやっていくのが工夫の第一歩だと思います。私、3月31日の任期で去りますけれども、皆さま、引き続き大正区を面倒見ていただきますように、心から御礼とお願いを申し上げます。

本当に今までありがとうございました。

○大津区政企画担当課長

それでは、これをもちまして、本日の区政会議を閉会とさせていただきます。

本日は遅くまで誠にありがとうございました。

午後8時30分閉会